# **恢徳堂からのお知らせ**

２０２３年１１月１１日（土） 文学フリマ東京３７において

この度は恢徳堂のブースに足を運んでいただきありがとうございます。

今回初めて文学フリマに出展してみましたが、本来は新刊を出す予定ではありませんでした。夏のコミックマーケット１０２で出展したもののみ頒布し、今回の新刊は冬のコミックマーケット１０３にて頒布する予定でした。しかし、今回文学フリマ東京３７に出展できるということで、改めて新刊を頒布することにいたしました。

私は、普段ＶＲＣｈａｔという**メタバースの世界に「暮らして」**おります。その世界は身体、地位、性別、距離などの**様々な「壁」を越え「ありたい自分であり、なりたい自分になれる」世界**であります。今回、井の頭公園駅とその周辺を舞台に選んだのもメタバースにおいて日本に一回も来たことがないウクライナの方がアップロードしたワールドに出会い、現地を３０回以上も訪れ、様々なものやことを見聞きし、体験してきたことがきっかけになっています。しかも、私にとって、井の頭公園は現実の高校時代の思い出の地でした。リアルの世界であれ、メタバースの世界であれ、いろいろな人と出会い、その中で喜びも悲しみも分かち合ってきました。様々な刺激を受け、新たなる可能性に気付くことができたと考えております。そこで、小説を書くということに出会い、書きためた「モノガタリ」をこのような形で公表できることは大いなる喜びであります。

さて、私はメタバースという「仮想」世界に暮らしていますが、いろいろな人と交流して様々な体験を重ねていくことは、もはやもう一つの「現実」だと感じるように思いました。そのような世界で暮らすための表現として、メタバースと魔術的リアリズム、私小説を融合したスタイルを**「並行現実主義」**と定義することにいたしました。

その、「並行現実主義」の旗手として、これからの執筆活動をより豊かなものにして行きたいと思っております。次回の文学フリマ東京３８においては、この「並行現実主義」の総決算となる作品を執筆したいと思っています。それは、「異国の戦争」と「ある男の過去」、そして「井の頭公園のエルフの日常」が絡み合い、一つの「モノガタリ」として結実していくような作品を執筆したいと考えています。私にとって、それらは全て「現実」であり、全て絡み合うものであると思います。

今後、私は１２月１７日（日）のバーチャルマーケットリアル、そして１２月３０日（土）のコミックマーケット１０３、来年５月１９日（土）の文学フリマ東京３８に参加する予定です。また、みなさんと出会えることを心待ちにしております。今後は、「井の頭文芸部」として創作活動を行っていきたいと思います。これからも、よろしくお願いいたします。

井の頭公園の無頼派エルフ　るいざ・しゃーろっと　敬白